

作成年月日：2020年 8月 17日（Ver.1.0）

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】

オミデネパグイソプロピル点眼液の生活体位を考慮した眼圧日内変動測定における効果に関する研究

【診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：西暦 2019 年 1 月から西暦 2020 年 5 月の間に受診
- 2) 受診科：久留米大学病院眼科
- 3) 対象疾患名：緑内障と診断され、入院治療を受けた方

【診療情報等の項目】

診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、視力、眼圧、眼圧日内変動、角膜厚、光干渉断層計、視野検査、投薬内容】

【研究目的】

緑内障はわが国では中途失明原因の第一位です。40 歳以上の日本人における緑内障の有病率は 5.0% であり、2016 年の人口統計をもとに計算すると推定患者数は 465 万人に上ります。

現在、緑内障に対する医学的根拠に基づいた唯一確実な治療法が眼圧を下げることです。眼圧は日内変動があることが古くから知られていて、体内時計による制御のほか、体位、運動、薬物、嗜好品、ストレスなどが影響するとされています。中でも体位の影響は大きく、就寝時に横になると確実に眼圧が上昇し、座った姿勢と比較して 4~5mmHg 高い値を示します。緑内障の方の眼の眼圧は正常な方の眼と比較して、横になった姿勢での眼圧上昇幅はさらに大きくなります。日本人の正常眼圧緑内障の患者様において、横になった姿勢での眼圧上昇幅が大きいほど視野も進行しやすいことも報告されています。

当院では緑内障と診断された患者様で、緑内障点眼未使用、またはすでに緑内障点眼を使用されている患者様を対象に、眼圧コントロールの評価目的に 1 泊 2 日の入院にて眼圧日内変動検査を行っています。日中は座った姿勢、夜間就寝時は横になった姿勢で測定しています。

近年新しい緑内障点眼薬としてオミデネパグイソプロピル点眼液が臨床使用可能となりましたが、夜間の眼圧下降効果についての報告はなされていません。当院での夜間就寝時の横になった姿勢で行う眼圧日内変動測定におけるオミデネパグイソプロピル点眼液の効果を検討します。

【研究（利用）期間】 久留米大学倫理委員会承認後から西暦 2025 年 8 月まで

【利益相反に関する事項】

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません。

【問い合わせ先】

研究責任者（使用する情報の管理責任者）・問い合わせ担当者：

久留米大学医学部眼科学講座 助教 佐々木 研輔

電話: 0942-31-7574（内線 3699） E-mail: sasaki_kensuke@med.kurume-u.ac.jp

研究番号 20149